

協働のまちづくり協議会（第1回）議事概要

- 《日 時》 平成29年4月28日（金）10時～11時30分
《場 所》 教育委員会 5階会議室
《委 員》 犬塚 裕雅 会長、坂野 喜隆 副会長、杉浦 利彦 委員、
長江 曜子 委員、文入 加代子 委員、牧野 昌子 委員、
江藤 政継 委員、山崎 年也 委員、門 良英 委員
《傍聴者》 0名

1 開会

欠席者報告・委員会定数確認、配布資料確認

2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

3 事務局の異動報告

4 新委員紹介

- ・第5期松戸市協働のまちづくり協議会委員のうち市職員の委員について、平成29年4月1日付けの人事異動に伴い、郡 正信 委員（平成28年度市民部審議監、平成29年度より福祉長寿部長）から市民部参事監 門 良英 委員に変更になった。

5 議 題

（1）第3次松戸市協働推進計画について

- ・パブリックコメント実施結果を報告した。
- ・パブリックコメントを反映した第3次松戸市協働推進計画最終案を4月の1ヶ月間公開した後、市長挨拶と平成28年度実績を反映し、最終版として策定を完了する旨を説明した。
- ・委員より以下のとおり意見があった。

委 員 施策の認知度という問題に対し、ホームページを活用するということだが、もう少し迅速に更新が出来るフェイスブックなど、色々な方法で情報を流していかないことには、足りないのではないか。デジタル化の時代なので、見える化を重視し、ケーブルテレビなど色々なところに露出して、無料でできる手段をできるだけ活用し、協働のまちづくりという概念があるのだということを日々発信していく必要がある。

まして、学生や若い人が情報にアクセスしたい時、ボランティアをしたいと思っ

た時に情報がどれだけ出ているかが勝負になってくる。それは、地域社会の担い手を掘り起こいかに育成していくのかということにつながる。

会 長 使える媒体を使って露出度を高め、目につきそれがだんだん周知に繋がっていく。市役所、まつど市民活動サポートセンター、諸団体にも情報露出度を高めるということで連携して行ければ良い。

(2) 平成 3 0 年度協働事業提案制度募集要項について

・変更点を説明した。

<変更点>

・労力換算額を 5 0 0 円から 8 4 2 円に変更した。

・協働事業負担金の対象経費を見直した。消耗品費の対象経費「短期間の使用によって消費される物又は 5 , 0 0 0 円未満の物品」という表現にした。また団体が打合せに使用する際の会場使用料を対象経費として認めることとした。

(3) 平成 2 9 年度年間スケジュールについて

・年間スケジュールについて報告した。

・現委員の任期が平成 2 9 年 8 月 3 1 日までであり、次期委員の選任に際しご協力をいただきたい旨お伝えした。

・委員より以下のとおり意見があった。

委 員 8 月 3 1 日で任期が切れる。協議会全体の流れでは 7 月に協働事業の一次選考となるが、任期が 9 月から始まると、一次選考と二次選考とで別の方がやることになる。8 月の任期切れは何か理由があるのか。

事務局 事務局でも今後検討しないといけない部分だと思っている。市民公募委員の任期を平成 2 9 年 9 月から平成 3 1 年 8 月までということで周知をしているので、ひとまずは 8 月で切り替わりとなるが、今後改めてお話ししたい。

(4) 第 2 回松戸市協働のまちづくり協議会 (平成 2 8 年度事業成果報告会) について

・事業成果報告会に関連して、5 点審議いただいた。

タイムスケジュールについて

・団体の発表の後、質疑を行うことを確認。

質問事項の取りまとめについて

・各団体に対し、事前に想定される質問を送付しないことを確認。

交流時間について

・今後の団体の活動、協働事業、協働推進施策に生かせるよう、報告会閉会后、まつど市民活動サポートセンターにコーディネーターとなり、交流の時間を設ける。今年度は、来場者以外に、市民自治課職員も数名入る。協働のまちづくり協議会委員は一旦

控室に戻るが、後から交流会に参加しても良い。

司会について

- ・今年度も、市民公募ではなく、事務局で司会を行うこととした。

講評の公開について

- ・報告会終了後、委員名を伏せた形で団体へ送付する。
- ・協働事業 1 事業、市民活動助成事業 1 事業において、高額な精算が発生していることを報告した。
事業年度当初に概算払いで協働事業負担金、市民活動助成金を交付し、年度末に精算という形を取っており、事業実施の結果、精算金が発生することがある。
- ・委員より以下のとおり意見があった。

委員 高額な精算について、節約できて費用が少なく済んだということだが、計画が甘かったと言わざるを得ない。節約したから良いというような言い方は良くないし、もともと市民活動は自分達でお金を調達して自分達が計画を立てた活動をやっていくのが本来の姿なので、わざわざ市の補助金に申請して来るというのはその覚悟というか、節約してくれてありがとうということにはならない。

委員 事業成果報告会の人には別に交流会の場を設けた方が良いのではないかと。協議会委員も交流会に参加できると思っていた。交流するのであれば別の機会を設けるなどの対応が必要だと思う。

会長 過去、まつど市民活動サポートセンターのホールを会場として、各団体が予めポスターを掲示していて、発表の際は前に持っていき、発表が終わったら戻して、皆で話すという方法を取っていたことがあった。

委員 事業成果報告会をお祭りのようにしたら良いのではないかと。発表会毎のポスターセッションみたいにしたい。プレゼンもありつつ、ポスターを見ながら立食形式で簡単なお茶菓子が出る、というのはいかがだろうか。

会長 今年度は事業成果報告会後に交流会という流れが出来ているので、過去のやって良かったというアイデアを含め、次回の報告会の求心力を高め、そこにいる時間が有意義になるよう、どう組み立てて行くかを議論する余地がある。

(5) 市民公募委員の選考について

- ・協議会開催日現在の応募状況を報告した。
- ・審査基準及び今後の流れについて説明した。
- ・前回の市民公募委員の募集との変更点を説明した。

(6) まつど地域活躍塾について

- ・現在受講生を募集していることや、協議会開催日現在の申請状況を報告した。
- ・まつど地域活躍塾の募集要項を説明した。
- ・委員より以下のとおり意見があった。

委員 講師やゲストの話をつきただけでは意味がない。最終的に、その日のそれぞれの気づきを確認していくことが大切である。

委員 実地体験を受け入れる団体が一番問題で、たまたま行った所が自分と合わず、嫌な思いをしてしまうこともある。私が所属するNPOが関わっているマッチングの場づくり事業では、受入れ団体のセミナーからやっている。選んでもらえるような統一様式のシートを出して、アピールしていくようなシステムを取っている。

6 閉会